

## 英語語彙学習の方略とその分析およびそれに基づく教材開発の提案

熊谷允岐 (立教大学異文化コミュニケーション研究科)

### 1. 本研究の目的

正規の教育課程以外で行われる日本人英語学習者の語彙学習方略の分析と、より効果的な語彙学習教材の提案を目的とする。日本人英語学習者は特に受験を目的として、教室外でも語彙の学習に努めているのが現状である。その時に用いられるのがいわゆる大学入試用の英単語集である。自律性の高い学習者は、そうでない学習者より語彙習得が促進されると指摘されており、今日の語彙学習方略における意義は自律的な学習者を育成することであるとしている(平野, 堀田, 2014)。本研究ではそのような環境において、①学習者はどのような方略を用いて語彙を学習しているのか、②彼らの用いている語彙学習教材、つまり英単語集がどのように編集され、学習者の語彙習得に寄与しているのか、あるいは寄与していないのかを語彙学習方略の観点から比較し、分析を行う。

### 2. 研究内容

東京都内の私立大学1年生86人に対して全74項目で構成されたアンケート調査を行った。アンケートは大きく2つのセクションから作成されている。

#### (1)第1セクション[52項目]

1つの語彙学習方略に対して、(a)見聞きしたことがある度合い、(b)実際に使っていた度合いの2つを4件法で調査し、クラスター分析で学習者を分類した。また学習者の用いる語彙学習方略の特徴を調査した。従来の研究では語彙学習方略の「使用」のみに焦点が当てられてきたが、本研究では方略に対する「見聞きした度合い」も加えた。見聞きしたことがある方略と、実際に使用していた方略は必ずしも一致せず、「知っていても使っていない方略」あるいは「方略だと認知せず使っている方略」を明らかにするために、2つのスケールを設けた。

#### (2)第2セクション[19項目]

(a)語彙学習に対する態度、(b)英単語集へのニーズについて調査した。また学習者の多くが用いる英単語集を対象に、どのような語彙学習方略が、どの程度導入されているかを調査した。

### 3. 参考文献

平野絹枝, 堀田誠 (2014). 日本人英語学習者の語彙学習方略 *JASELE, 英語教育学の今-理論と実践の統合-*, 156-159.

Schmitt, N. (1997). Vocabulary learning strategies. In N. Schmitt, & M. McCarthy, *Vocabulary: Description, Acquisition and Pedagogy* (pp. 199-227). Cambridge: Cambridge University Press.

Schmitt, N. (2000). *Vocabulary in language teaching*. Cambridge: Cambridge University Press.